

## ペガちゃんフロ3 「すなとなかよし」(サンドクラフト) [小学1・2年図画工作科]

ねらい	当所の活動プログラム「サンドクラフト」と小学校第1学年及び第2学年図画工作内容「A表現(1)ア、B鑑賞(1)ア」と関連させたプログラムである。砂や土に触れ、活動するときの行為や感覚を通して、いろいろな形や触った感じなどに気付き、砂や土の形などをもとに造形的な活動することをねらいとしている。
概要	サンセットブリッジ下の砂浜で、砂をさわり、砂の性質を生かしてスコップや塩ビ管等を使った造形遊びをする。
よさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 万之瀬川河口で活動することにより、発想豊かな活動が期待できる。</li> <li>○ 学校内で収集できない貝や漂着物の木材などを活用できるので、作りたいもののイメージを膨らませ、自分の見方・考え方を広げることができる。</li> <li>○ 当所のクラフト体験を通して、公共施設の利用の仕方などを学ぶ機会となる。</li> </ul>

- 校種・学年 小学校 第1・2学年
- 教 科 図画工作科
- 内 容 A表現(1)ア、B鑑賞(1)ア
- 展 開 (例：90分)

過程	主な学習活動 ※ ( ) …指導者	時間(分)	指導の手立て
導入	1 サンドクラフト倉庫前で活動の見通しをもつ。(引率者・自然の家職員)	5	○ 広い砂地で、つくりたいものを思い切り作ることを伝えることで、学習意欲を喚起させるようにする。 ○ スコップや空き容器などは袋に入れ、安全に移動させるようにする。 ○ 活動範囲や活動方法を確認させるとともに、児童との対話を通して、つくりたいもののイメージをふくらませるようにする。
	2 安全に気を付けながら活動場所(サンセットブリッジ)へ移動する。(自然の家職員)	10	
	3 学習のめあてをつかむ。(引率者) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">すなやまわりのものをつかって、どんなさくひんができるかな。</div>	10	
展開	4 砂や貝、漂流物等を使って、やってみたいことを試しながらつくる。(引率者・自然の家職員) ・ 大きな山、トンネル ・ 大きな水路 ・ 同じ形をたくさん並べる	45	○ 用具などは、十分な数を用意することで、いろいろな造形操作を繰り返し、試しながら活動できるようにする。 ○ 「このあとどうなるの。」などと言葉をかけ、思いを聞き取ったり、試したりしたことを称賛したりするようにする。
終末	5 活動中の思いや工夫したことを発表し合う。(引率者) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">みずをたくさんながして、かわをつくったよ。おおきなやまをつくっているのをみたよ。すごかったな。</div>	10	○ 互いの造形活動を見合うように促すことで、様々な造形方法に気付かせ、発想を広げることができるようにする。 ○ 相互に活動や活動場所を見る時間を設定することで、砂の形の変化の面白さを感じることをできるようにする。
	6 活動を振り返る。	10	○ 自己の学びを振り返り、自己の変容や成長を自覚させ、充実感や満足感を味わわせ、次の活動への意欲を高める。
	7 安全に気を付けながら移動し、片付けをする。(自然の家職員)	10	○ 片付けをし、忘れ物がないかを確認させ、安全に移動させる。

- 事前に準備するもの  
(自然の家)： 移植ごて、バケツ、ペインティングナイフ、塩ビ管(小)、スコップ  
(学 校)： ビニル袋、汚れてもよい服・靴、軍手、帽子、水筒